

【研究主題】 **健康教育活動を活性化させる要因に関する研究**  
～ 養護教諭が行う組織的な活動の視点から ～

小学校部研究部長(長岡市立大島小学校) 長部 亮子  
中学校部研究部長(関川村立関川中学校) 長谷川ひとみ

キーワード：コーディネーター 自校の健康課題 組織的な健康教育活動

## 1 はじめに

近年、生活環境の急速な変化は、子どもの不登校やいじめ問題・薬物乱用・性の逸脱行為・生活習慣病の増加などをもたらし、子どもの健全な発育・発達に深刻な影響を与えている。このような心身の健康課題に対応するには、子どもが生涯を通じて健康・安全に生活していくための実践力の育成を図り、「生きる力」を培うための健康教育活動が求められている。

学校においては、健康教育活動の担い手である養護教諭が組織の一員としての自覚を高め、子どもの心身の健康問題解決に向けた対応をはじめ、学校教育活動の評価と連動した健康教育活動を推進していくことが必要となってくる。

さらに、本年度4月より学校保健安全法の施行となり、健康教育推進の中核として、学校や家庭・専門機関との連携を図るため、養護教諭がコーディネーターとしての役割を担うことがよりいっそう求められている。

平成19・20年度研究では、「保健室経営の重点活動表」を活用して養護教諭一人ひとりが、各校における健康課題の中で重点的に取り組むべきことを決め、健康教育活動において企画・調整し、実践・評価・改善を繰り返してきた。そこから子どもの変容をとらえることで、組織的な健康教育活動の有効性について検討してきた。また、健康教育推進にあたり、養護教諭の専門性についても議論を重ねてきている。

先行研究としては、桑野・盛の「学校健康教育を活性化させる要因に関する研究」(2002)<sup>1)</sup>がある。ここでは、健康教育を活性化させる要因は、「教職員の意見やアイデアの尊重」「教育課題への位置づけ」「活動の成果の共有化」「教職員のニーズの顕在化・共有化」等であることが明らかにされている。これらを受けて、本研究推進委員会では新潟県の健康教育活動の実態を客観的に把握し、より活性化させるためにはどんな要因があるのかを明らかにしたいと考えた。

そこで、平成21・22年度研究では、会員は「保健室経営の重点活動表」を継続して活用していく中で、自校の健康課題や子どもの成長への願いをより明確にし、コーディネーターとしての役割を意識しながら運営活動を展開する。そして、研究部では、実践結果と健康教育活動に関する調査を通して、組織的な健康教育活動をより活性化させるために有効な要因を明らかにしていきたいと考えた。

## 2 研究目的

養護教諭が行う健康教育活動に関する調査から、運営活動を中心に検討し、組織的な活動をより活性化させる要因を明らかにする。

## 3 研究方法

### 1) データの収集方法

#### (1) 会員

- 自校の健康課題と子どもの成長への願いを明確に持ち、重点活動表を作成する。
- アンケート調査に回答する。

#### (2) 支部の研究推進委員

- 支部内の会員の資質向上のための研修計画を立案する。
- 研修計画を推進、集約、考察をし、研究部へ報告する。

(研修例：文献検索・質的評価基準の書き方・論文の読み合わせ・研究的な視点での評価など)

(3) 研究部（研究部長及び地区代表者）

- 研究計画立案、支部からの報告を分析し、会員へ報告する。
- 全県アンケート調査の実施と結果を考察し、会員へ報告する。
- 各地区から2名ずつ依頼し、協力して実践を研究論文としてまとめる。

2) データの分析方法

- 1年目と2年目のアンケート結果を分析対象とする。
- 活性化する要因について仮説を立て、それに基づいて、アンケート項目を作成する。
- 活性化する要因として何が有効だったのか、有効でなかったのか、校種、規模、経験年数、実態、重点課題の捉え方、意識した観点などを明確にして統計的に分析する。

4 タイムスケジュール

1) 1年次（平成21年度）

(1) 会員

内容と方法	〆切
① 「保健室経営の重点活動表」に自校の健康課題と子どもの成長への願いや健康課題解決の取組を記入する。	8月14日までに、支部の研究推進委員へ提出。
② 中間達成状況を反省・評価し、修正案を作成し実践を進め、その結果をまとめる。	研究結果を3月5日までに、支部の研究推進委員へ提出。
③ 全県アンケート調査にインターネットで回答する。	1月25日まで
④ 次年度の計画を立案する。異動する場合は、前任者が責任をもって作成し、後任者に引き渡せるように準備をする。	

(2) 支部の研究推進委員

内容と方法	〆切
① 今期の研究推進計画を元にして、支部内の研修計画を立案する。	7月13日まで
② 支部内の会員に周知し、支部内で活動を推進する。	研究部へ報告する。
③ 支部内の会員からの報告を集積、考察する。	9月14日まで
④ 支部内での活動を推進する。	研究部へ報告する。
⑤ 平成22年度の研究推進計画（2/9提示）を支部内の会員に説明し共通理解を図る。平成22年度に必要な研修計画を立案する。	3月31日まで
⑥ 支部内の会員からの報告（3/5〆切）を集積、考察する。	研究部へ報告する。

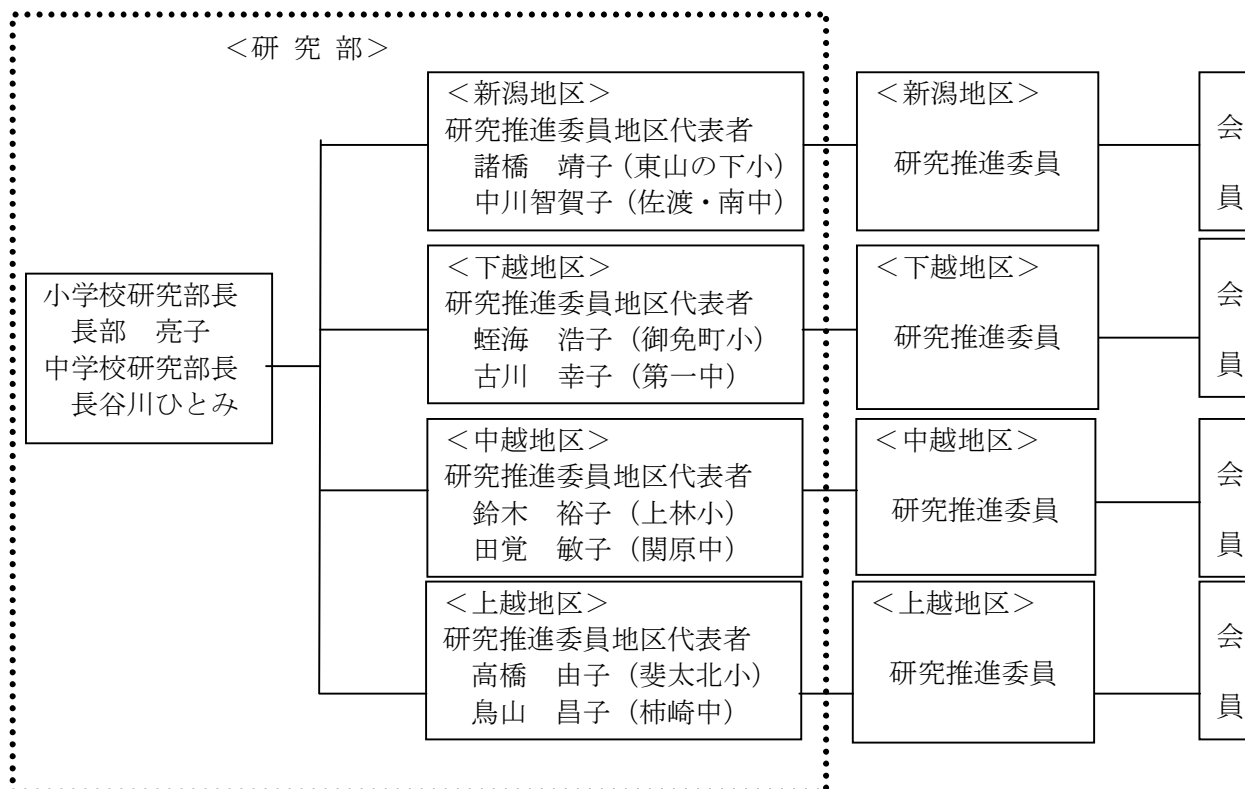
(3) 研究部（研究部長及び地区代表者）

内容と方法	〆切
① 今期の研究推進計画を立案し、研究推進委員に共通理解を図る。	5月12日
② 各支部の研修計画の立案を支援する。	
③ 各地区から2名ずつ研究論文執筆者を依頼する。	7月13日
④ 支部からの報告を分析し、結果を研究推進委員にメールで報告する。	
⑤ 研究誌に、研究計画と経過を執筆する。	10月15日
⑥ 支部からの報告を分析し、会員へ報告する。	
⑦ 全県アンケート調査の結果を考察し、報告する。	2月9日
⑧ 平成22年度研究推進計画を立案し、第2回研究推進委員会で提案する。	

2) 2年次：研究結果をまとめるとともに、研究論文執筆者の論文を研究誌に掲載する。

## 5 研究組織

### 1) 組織図



2) 支部ごとに、実態に合わせた研究組織を作り活動する。研究組織は支部を単位とするが、それら二つ以上を合わせて一つの組織としたり、市・郡の教育研究会、学校保健会等と研究をかけあわせて行ったりしてもよい。

3) 研究推進委員ならびに支部の代議員は、新潟県小学校教育研究学校保健部、新潟県中学校教育研究会養護部の役員とも協力して研究を推進する。

## 6 研究予算

平成21年度の予算は90万円。各支部に配分する。

### 引用参考文献

- 1) 桑野美千代 盛 昭子：学校健康教育を活性化する要因に関する研究－養護教諭の働きかけの側面から－ 日本養護教諭教育学会誌 Vol. 5, No. 1, 2002

\* これまでの研究の経緯

	研究主題 副題	研究仮説	目指す児童生徒の姿	
H7.8	健康な生活を積極的に実践する児童生徒の育成～発達段階に即した効果的な保健指導はどうあればよいか～  主に、授業実践と性に関する指導	発達段階に即した指導内容の精選・重点化を行い、系統性のある指導を計画的、継続的に行うことは、健康な生活を積極的に実践する児童生徒の育成につながるであろう	研究で目指す「健康な生活を積極的に実践する児童生徒」とは、主体的に健康管理ができ、進んで生活を実践できる児童生徒をいう。	(小) 八幡ミツ子 (中) 鹿野千佳子 (h3～の継続研究)
H9.10	生き生きと自分らしく健康な生活を実践できる児童生徒の育成～養護教諭が行う支援活動はどうあればよいか～	心身に問題を抱える児童生徒に対して、カウンセリング的対応を身に付けた養護教諭が、学校内外の関係者と連携して支援すれば、児童生徒は生き生きと自分らしく生活するようになるであろう。	研究で目指す「生き生きと自分らしく健康な生活を実践できる生徒」とは、自分の心と体の健康について自ら考え、主体的に健康生活を実践できる児童生徒をいう。	(小) 岡本京子 (中) 竹田文子
H11.12	生きる力をはぐくむ健康相談活動～養護教諭が行う支援を通して～	保健室が健康センターとしての機能を十分に生かした支援をしていくことができれば、児童生徒一人一人の生きる力をはぐくむことができるであろう。	自分の心と体の健康問題を解決する能力を身に付け、主体的に健康生活を実践できる児童生徒。	(小) 谷澤明美 (中) 山井昭子  学校内外の関係者と連携
H13.14	生きる力をはぐくむ健康教育～養護教諭が行う効果的な健康教育活動の在り方～	養護教諭が専門的な知識や技能を生かし、積極的に健康教育活動を推進すれば児童生徒に生涯を通じて、心身ともに健康な生活を送ることができる資質や能力をはぐくむことができるであろう。	自分の心と体を見つめ、主体的に健康生活を実践する児童生徒	(小) 金内美智子 (中) 堀内美奈子  自校の健康課題をとらえる。活動の評価と課題の分析。保健指導。ライフスキル教育
H15.16	同じ ～Ⅱ～	なし	同じ	(小) 山田文代 (中) 美濃悦子
		ここから、「研究のねらい」となる		
H17.18	生きる力をはぐくむ健康教育活動～養護教諭の特性を生かし、組織的に推進する健康教育活動～	養護教諭一人一人が、学校の教育目標や方針に沿って子供の健康課題を明確にし、その解決に向けて、自身のもつ特性を生かして組織的に健康教育を推進する方法を探り、相互に情報を共有化の中で養護教諭としての資質向上を図る。		(小) 井出千恵子 (中) 高橋 尚子  評価システム、組織マネジメント
H19.20	生きる力をはぐくむ健康教育活動～保健室経営の重点活動における評価・改善を通して～	養護教諭が、子どもの生きる力をはぐくむために、保健室経営の重点活動において、評価・改善を繰り返す。この過程において、子どもの変容から組織的な健康教育活動の有効性や発揮すべき養護教諭の専門性を明らかにし、共有化を図る。		(小) 遠藤かおる (中) 関矢 睦子  保健室経営の重点活動表

## 平成21年度 研究推進日程計画

★ 印は全会員   ● 印は支部研究推進委員   ・ 印は研究部

期 日	会 議	内 容
5月12日(火)	◎第1回 研究推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成21・22年度研究推進計画の確認</li> <li>・研究推進計画細案・活動予算配分計画について審議</li> </ul>
7月13日(月)		<ul style="list-style-type: none"> <li>●各支部の研修計画を立案し<u>研究部へ報告</u></li> <li>●支部内の会員に研究推進計画を周知し、会員の活動と支部の研修計画を推進</li> <li>・研究誌執筆者を依頼</li> </ul>
8月7日(金)	県養研研修会・総会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員からシンポジストとして参加</li> </ul>
8月14日(金)		<ul style="list-style-type: none"> <li>★会員は「保健室経営の重点活動表」を支部研究推進委員へ提出</li> </ul>
9月14日(月)		<ul style="list-style-type: none"> <li>●支部内の会員の報告を集積、考察し、<u>研究部へ報告</u>(活動のテーマ、運営活動など研究部が提示した集積項目に添ってまとめる。質的評価基準を設定した例を提出する。)</li> </ul>
9月30日(水)頃	○第1回地区代表者会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校種別研究実施状況調査の内容検討</li> <li>・研究推進・研究誌編集について等</li> </ul>
11月6日(金)頃		<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究誌執筆原稿のメ切り、研究部へ提出。</li> </ul>
11月13日(金)頃		<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究部で点検の上、原稿を研究誌担当へ送付</li> <li>・校種別研究実施状況調査の内容検討と作成</li> </ul>
12月25日(金)頃	○第2回地区代表者会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回研究推進委員会の運営に関わる計画検討</li> </ul>
1月中旬		<ul style="list-style-type: none"> <li>★「校種別研究実施状況調査」の実施(会員はインターネットで回答)</li> <li>・その後調査の集約と考察</li> </ul>
1月下旬		<ul style="list-style-type: none"> <li>●各支部の研修内容の報告 (平成21年度校種別研究の評価・反省報告)</li> </ul>
2月9日(火)頃	◎第2回 研究推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間の研究の反省</li> <li>・次年度の研究推進内容の検討</li> </ul>
2月15日(月)頃		<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回代議員会で研究誌を配布</li> </ul>
3月5日(金)		<ul style="list-style-type: none"> <li>★会員は今年度の「保健室経営の重点活動表」を支部研究推進委員へ提出</li> </ul>
3月31日(水)		<ul style="list-style-type: none"> <li>●支部内の会員の報告を集積、考察し、<u>研究部へ報告</u></li> </ul>

## 平成21年度 保健室経営の重点活動表

〇〇立〇〇学校 養護教諭名  
(児童・生徒数 人)

記入例

<p><b>【児童・生徒の健康課題】</b></p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;">                 ☆自校の児童生徒の健康課題をあげる。             </div>	<p><b>【教育目標】</b></p>	<p><b>【養護教諭の児童・生徒への願い】</b></p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;">                 ☆こんな子どもに成長して欲しいという具体的な目指す子どもの姿を書く。(自己管理能力、人間関係力、コミュニケーション能力等)             </div>
<p><b>【重点目標】</b></p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;">                 ☆自校の健康課題から一番取り組みたいことを書く。             </div>	<p><b>【組織的に健康教育を推進する具体的な方策と評価】</b></p>	

	評価項目	評価基準・評価方法	中間達成状況と今後の方策	年度末の達成状況と次年度の方策
成果	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     ☆子どもに期待する姿を書く。                 </div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     ☆質的・量的に妥当性のある基準を設定し、見取りができるようにする。                      ☆誰が・いつ・どんな方法で行うのか。                 </div>		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     ☆どんな子どもの変容があったのか。                 </div>
教育活動	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     ☆養護教諭として捉えた子どもの健康課題を対応だけに終わらず、どう教材化していくのか。(保健指導・保健学習・健康相談e t c) 子どもに直接働きかける活動で取り組みたいことを具体的に書く。                      重点目標実現のために行う子どもへの活動                 </div>			
運営活動	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     ☆養護教諭が組織を活かし、子どもに間接的に働く活動を書く。                      成果の達成を支える教職員・保護者・学校保健委員会・地域・専門機関などの活動                 </div>			<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     ☆養護教諭がコーディネーターとしての役割を果たし、学校内外のどのような組織で、どんな取り組みが、どのように有効に働いたのかを評価して記述する。                 </div>

**【考察】**

☆実践活動を通して、子どもの変容から成果と課題を書く。(課題解決への方策はどうだったのか)  
 ☆どのような組織でコーディネーターとしての役割がどう働いたのかを評価、考察して記述する。働かなかった要因も探る。